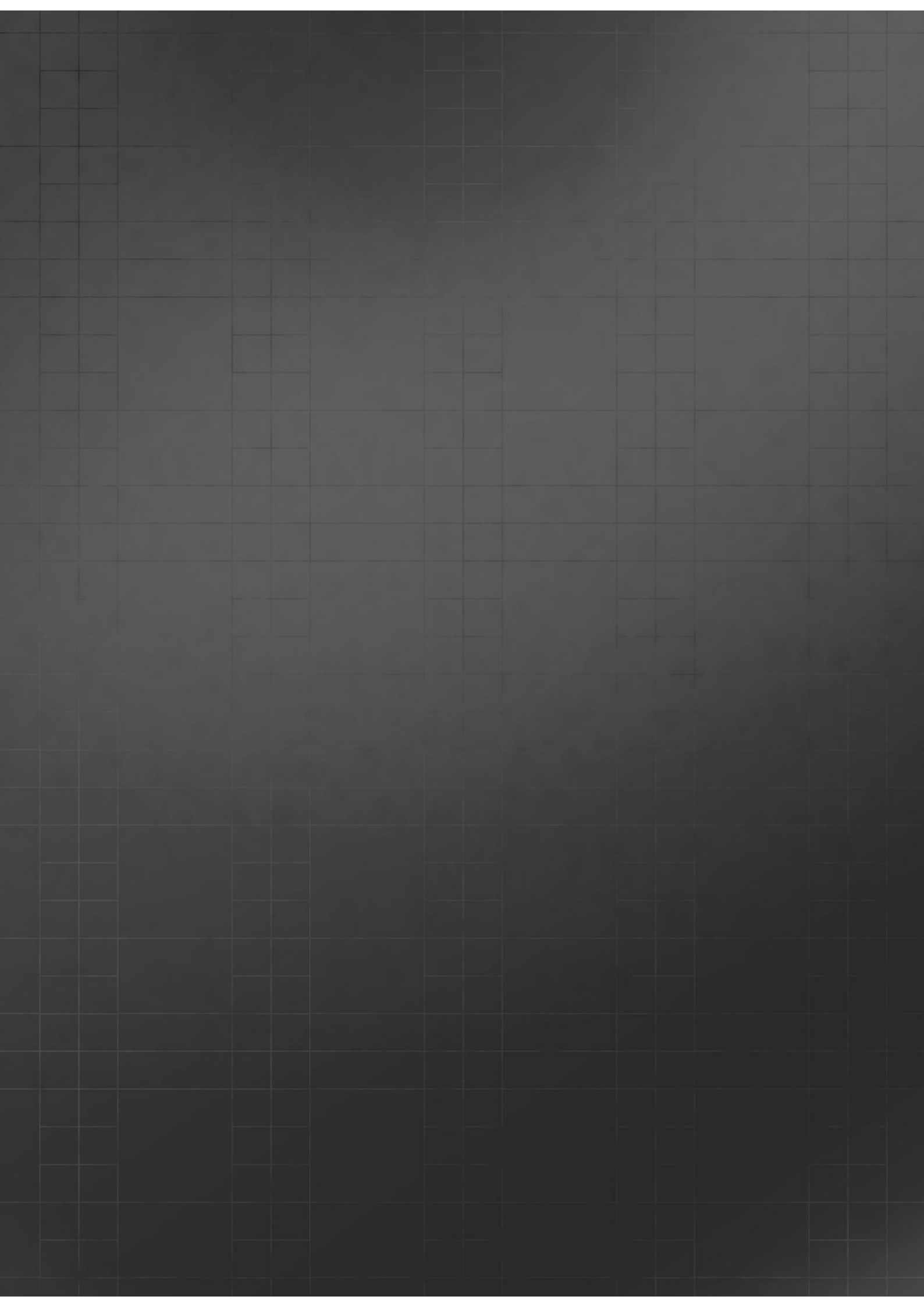


ARGENTA ARGENTORUM





A.:A.:



Beso de Plata

◇ARGYROID SERIES◇

05. GEMMA

06. NYMPHAEA

07. ANTIGONE

09. CAMPANULA

CATTLEYA .10

CLERETUM .13

EPIPHYLLUM .14

GALANTHUS .15

頭上に満月がかかった夜、幾度か、
水鏡に映る自分の姿を眺めてみたことがありますが、
それは、自分がどこをとっても彼女たちに似ていないことを確認するためでした
——とはいっても、わたしは相変わらず美しく、
それは讃嘆と同じくらい大きな恐怖を呼び起こす、死を呼ぶ美でした。

——スタニスワフ・レム『仮面』

ええと、L&K シンジケートの結成に合わせてインテグラル・リリウムが
いよいよ地球圏で窓口になる企業を開設した、それがベソ・デ・プラタ社ね。
いや、今はちゃんと全部分かってるけど当時は前任者のババアに意地悪されて……
現場についてから「え？LKには生身の構成員なんかいないわよ？」なんて、
散々駆けずり回ってからね。まあそれは置いといて。
あのころ私は……ロンカ大を出て女王代行領との提携研究が任期満了して、
パートナーのツテで〈骸閥〉に潜り込んだばかりで。
全く信用されてなかったから環月のシャイツェン・コリダーなんかで
機密データの受け渡しをするなんて危険な雑用を押し付けられたわけです。
ネクロテックが利用できない環境において屍者を代替する銀の静物。
私に言わせればあまり意味があるとは思えなかったですが。

——〈骸閥〉実地試験管理者、リァンノン・スクナ

現地の腕ききのゴロツキを通すのが最良だとあのときは思ったんだけど、
あんなことになるなんてね。いやあたしもペーペーだけども、あそこで
ソムンが間に合わなかったらと思うと……え？あいつ？あいつはカミル。
出身はシャイツェンじゃない、L4の名前も売っちゃったコロニーだって。

——L&K シンジケート連絡員、イ・ダイナ・ウブリエル

(録音起こし 0203 [21:03] ■:カミル・ツィノヴィ ○:イ・ダイナ)

■ 春節だかなんだか知らんが、公営冬月間なんかクソ喰らえだ。

○ そう？あたしは嫌いじゃないけど。年中快適なもの結構だけど、こういうのがないと……

■ こういうのがないと？

○ 肉体を持つ人間であることを蔑ろにするんじゃない？知らんけど。

■ はあ。そんなくだらないこと言ってるから、肉体がないヤツらにこき使われるんだ。

(金属のドアが開く音)

○ ちょっと、LKは少なくともシャイツェン内のどの企業よりもマトモな雇用契約だよ。

(外で強い風が吹く音)

○ あんただって他所のコロニー出身ならこういうのは珍しくて楽しいもんじゃないの？

■ あのな、俺んとは貧乏過ぎて内部環境の維持体制がとっくの昔に崩壊してたんだ。年中極寒だよ。

■ 目覚めるたびにまず飯と水が凍ってないか心配しなきゃならなかったし、カラカラで雪なんかねえんだ。

○ ……そいつは、ごめんなさい。

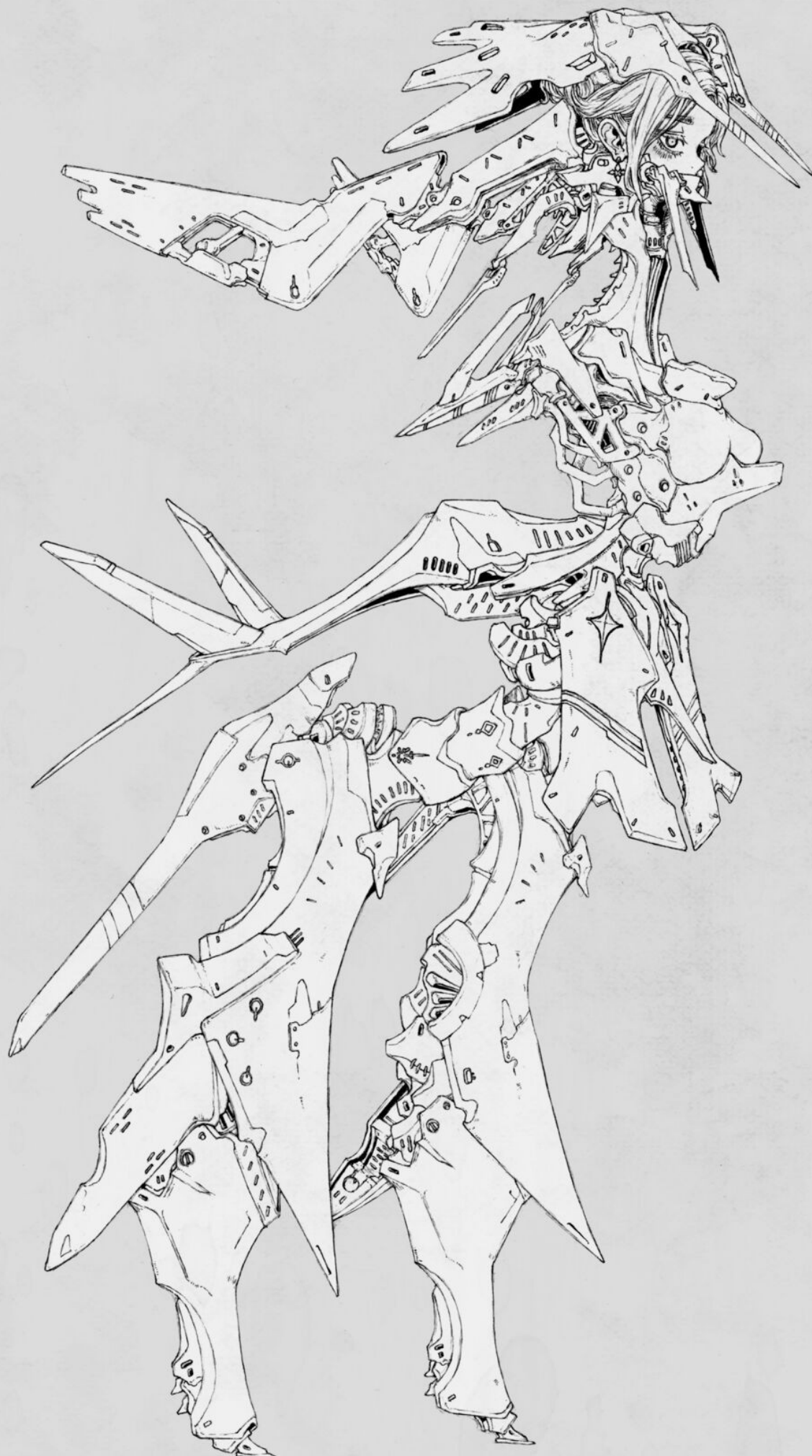
■ 人工的な冬なんて、金あるとこの道楽だって分かってもらえたならいいさ。で、そいつか？

(大きな布を下ろす音)

○ ええ。このプロトタイプそのものが納入データの表現形質なの。

■ 何を言ってるのかよく分からんが、とりあえず厚着が目立たん時節でよかったな。







僕の仕事は〈骸閥〉側のスタッフをタイミングよく待ち合わせ場所に連れて行くことで、地域の治安を考えて一応防弾の車を用意してたんですけど……〈骸閥〉がぞろぞろと保安ネクロテックを引き連れてきたせいで無駄になりました。あいつらどこで仕事するときもあんな感じなんですかね。向こうから車を拒否されたので徒歩になって……それで、デйнаたちのルートは本来大丈夫なはずだったんですよ。ただちょうどあの時、デッドミルク・マフィアと地元のヤクザの抗争があって、まだシマとしては不安定なデッドミルクのエリアを横切っちゃうかたちになって。僕もデйнаもシャイツェン生まれですが、ノースサイド出身でそんなにこの辺は……詳しい取引相手もいなかったですしね。反省点です。

——L&K シンジケート連絡員、ソムン・エピリス

ウチらのボスが、当時完全にスラムだった南端で調整屍者の乳を飲んで育ったのはご存じだよね。スィカ・アズレフ、死で育った男。デッドミルクって名前もそれ由来だ。ボスはしばしば仰った、

「俺に偏見はない、世間の連中は母親に多くを背負わせるが、俺に言わせりゃ母親ってのは産み落とした瞬間から免責なのさ。母が一番ビッグな女に思えるのは、そりゃお前らが一番無力な時ときに唯一接する女だからにすぎないだろ」

ええと、何の話でしたか。とにかくボスは、自分自身の力を最も頼りにしているし、何者からの横やりも決して許さないことでここまでやってきたということです。

——デッドミルク・マフィア幹部、レスツェク・レブジス

(録音起こし 0203 [23:55] ■: カミル・ツィノヴィー ○: イ・デйна)

■ 厚着でもさすがに不自然かも知れんな。シルエットで腕が無いのがバレる。

○ 特殊な体型の人間なんか太陽系にいくらでもいるでしょ。

(三人分の足音、二人分の息遣い)

■ こういうところにはいないんじゃないか？

○ どうせ夜中だし。足跡を残したくないなら、一緒に歩かせるのが一番良いって……

■ まあそうだな。ただ、何となくいつもより人の気配を感じるから。

○ あと2ブロック先だった？ 森に入る道って。

(複数の破裂音がし、二人と一体が倒れ込む)

○ ちょっと、何！？

■ 撃たれてるな。ありゃマフィアだ。

○ 抗争……？ やったた？

■ それかお前らの情報漏れか？

○ 今日あんたに連絡した昼にぜんぶ決まったんだから、そんな時間は！

■ とにかくこいつが損傷するのはマズい、脇道に入るぞ。





この低空にいれば、自由に規則に従うことができる。

——ピーター・ワッツ『天使』

INTERLUDE: RHIANNON and MANNY

◇先輩？先輩？

◆ん……何。

◇ごめんなさいこんな時間に。こないだの伝記の本、返そうと思って。面白かったです。

◆でしょ、マニエ的にはどの辺が？

◇クランプ・サヴィエの作品は実はそんな読んでないんで、どうしても本人の人生の……

◆うんうん。

◇その……性的？関係にあった相手が生涯で唯ふたりで、それが男と女だったってとこで。

◆結構よく研究テーマになったりしてるんだよそれ。

◇それって「どっちか」とか「どっちも」って話じゃないですよね多分。

◆うちもそう思ってる。まあでもさ。

◇でも？

◆唯ふたりってところは公称というか、自己申告なんだよね実は。生前からの。まあそれもどうなんだって話だけど。

◇じゃあそこは事実じゃないかも知れない？

◆事実っていうと……人生についてはあんま使うべき言葉でもないんじゃないかな。

◇あー……ああ、でもそうですね。実際の人数がどうのという話ではない。

◆クランプ・サヴィエの中で、やったと思った相手がそのふたりだけっていうことかも知れないよね。

◇それもちっとひどいような気がしますけど。でもそうですね。客観的な話と、本人にとってどうだったかは別で。

◆だからあんたは、いやあたしもだけど、会館の前の連中はそれはそれで気に入らないんだよ。

◇そうですね。ところで……引っ越しの日程は変わってないんですよね？

◆変わってないよ。

◇手伝いに行きますよ。いや本当、おめでとうございます。

◆どうしたの改まって。

◇いや、向こうに合わせて改姓するんですよね。スクナでしたっけ？

◆ああ、私にとって都合良いからね。

◇じゃあミズ・ンクウェクなのも今月いっぱいですね。

◆ミズ・ンクウェクなんて言ってたのはクラリモンド教授くらいでしょ。

◇響きは悪くなかったじゃないですか。あ、じゃあこの辺で。

◆また来週ね。

(録音起こし 0204 [06:17] ■: カミル・ツィノヴィ ○: イ・デイナ)

■ もう一時間も遅れてるぞ。さっき顔出そうとしたらまた撃たれたしな。

○ みんな無傷で済んでるんだから、よしとしましょう。

■ よしとするにはまだ早えよ。道が無視して森を突っ切ったら行けるか？

○ 一発も命中しないところがイメージできない。

■ そりゃ馬鹿みたいにかたまりになって走ればな。単純な囲作戦で行こう。

(立ち上がる音)

■ その外套も持っていく、俺がこいつを担いでるように見せかける。

○ そんな危険なことしろってあたし言ってないんだけど。

■ 仕事の信用の問題よ。こいつを届けられなきゃ俺はまた別の筒に移って一から始めなきゃならん。

■ 現実的じゃないだろ？大丈夫、これが上手く行きゃちょっとはバツの連中に顔が利くようになる。

○ く骸闊) そう略す人初めて見たよ。そんな口叩けば叩くほどあんたが死にそうに見えてきた。

■ 問題は俺じゃなくてお前がちゃんと走れるかだ。あとこれを頼む。

(レコーダーがポケットから取り出される音)

○ あんたの仕事用でしょ、なんかあったときのための……

■ 今回の件はたいしたこと無いんだが、過去の音声も色々入っててな。

○ ちゃんとデータぐらい移しといたらよかったのに。

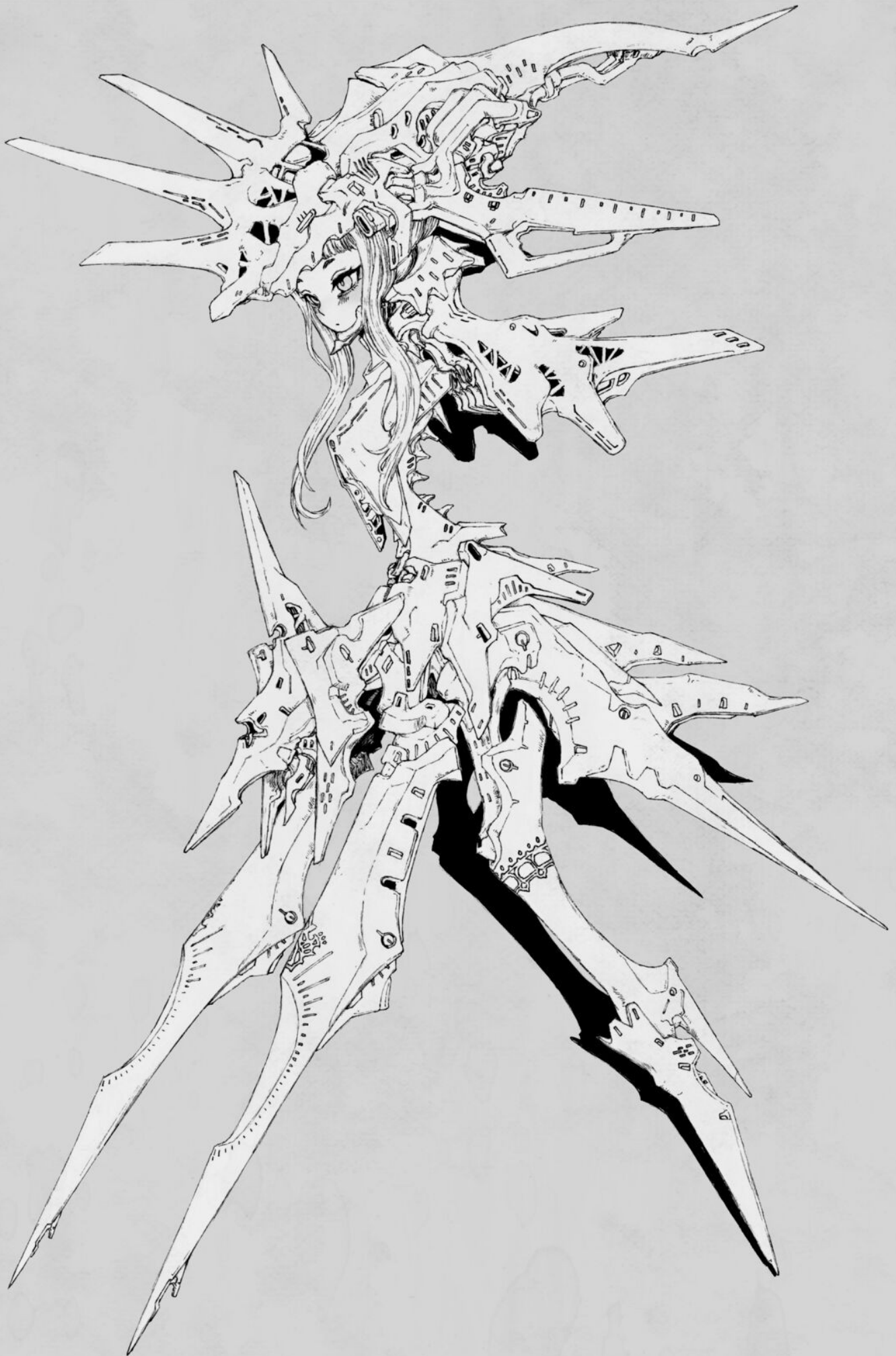
■ 俺が生きようが死のうが、やつらにこれを確認されると非常にマズいんだ。俺も取引先も。

○ じゃあ預かってく。こんなもん持ち続ける責任はマジ勘弁だよ。

■ よしじゃあ、十数えたら行くぞ。

望遠鏡を使えば、星だけでなく筒の対面側もよく見えるから趣味で眺めてて。
人工冬で空気もクリアだったし。それでたまたまあの辺？フェブラリー通りと
その横の丘と森の辺りかな、ちかちか光ってるなー覗いたら明らかに発砲しててさ。
物見高さって良くないんだけど、通報する前にしばらく見てて……いや本当に
良くなかった。大柄な男が一人で逃げてて、丘のふちでバランスを崩して……
下まで滑り落ちていったんだよね。撃たれたようにしか見なくてさ。
それでようやく我に返って通報して、また望遠鏡戻って観察してたんだけど、
一向にセキュリティサービスが来る様子もないし、さっきの男も動かないし。
そのうち夜明け時間が始まって、光の角度で見えなくなっちゃってさ……。
ニュースにも何にもなってないし、あれは何だったんでしょうね。

——サウスサイド在住、ビルンダ・ソク







え？誰も死んでないですよ。死んでたらいくら市民権の無い密輸入だって大ごとでしたよ。ギリギリで弊社のフィクサーがスィカに直接コンタクトをとって、特例的になんとか攻撃をやめてもらえたんです。まあ色々な駆け引きはあったみたいですが、伊達に共和国崩壊からずっと死で商売してないですね、感心しました。

あー、実働スタッフの皆さんの医療費はLKにブン投げましたけど。あの“大天使”って人体が怪我するとか治癒するとかそういうこと分かってるんですかね？

私が知ってるのはここまでです、その後またすぐ別の雑用を押し付けられて、で、今度は地球送りですよ。またまた、とぼけないでくださいよ。パイブル・ブラック・バードの試験です、あなたも追いかけてるでしょ？降りる許可が出ると良いですね。

例のオッセ・デワノツェクの蜂起からもう、やりたい放題できる場だってあらゆる企業が無理矢理首を突っ込もうとしてるんですから。まあ突っ込まれる首そのものである私が言うのもなんですが、前の紛争に続き住民には悲惨な話ですよ。相変わらずアキタ・ヌヴも知らんぷりだし。え？ダスクポイント社のイモータル・スワン……えっ、マニーが？……それどこから漏れてるんです？

——〈骸閥〉実地試験管理者、リァンノン・スクナ

(録音起こし 0204 [07:54] ■: カミル・ツィノヴィ ○: イ・デイナ)

○ カミル……？あー、とりあえず生きてるみたいだね。

■ ……とりあえずってな、首折れてるかも知れないだろ。

○ そんなこと思ってないくせに。ほら膝動いてるし、がくがく震えてるし。

■ 状況分かんねえから銃声止んでからもジッとしてたんだぞ！

(雪を振るい落としながら起き上がる音)

■ あー、でも足首はひねってる気がするな。もうブツはバツどもが持ってったか？

○ ええ、お仕事は完了。もう報酬も振り込み済み、LKはフェアなので。

(風が吹き抜けていく音)

○ 夜明けね。

■ クソったれ、暑いも寒いも、雨も風も、昼と夜だって金持ちどもの道楽だ。

○ そんなことばっか言うなら地球のどっか非合法的な飛び地にでも降りたら？全部タダだよ？

■ そういうことじゃないんだが……

(雪の上に腰を下ろす音)

○ ……どうしたの。

■ いや……人生で初めて、雪ってきれいだなと思って。

○ ……ふっ。

(イ・デイナが身体をくの字にして笑い続けている)

すみれ色の微風が渡っていた、一面の雪が銀色に光るのが、
夜の魔法のつづきであるのか、それとも夜明けのせいかな、
私たちには定かではなかった……
——ブルーノ・シュルツ『肉桂色の店』

『アルゲンタ：アルゲントルム：』お楽しみいただけましたでしょうか。昨年は結果的に一冊も本を出さないという決断をしてしまいまして、それでやっと何か作ってると思ったらテメエ、これネクロテックじゃねえじゃねーか！待ってください、芯は同じなんです、ただネクロテックがいつも帯びてきた混沌や毀損を敢えて捨てて、月のような骨と銀から成る異形として再構築してみたくなった、それがアルギュロイド、ARGYROID、銀様体です。くだらない区分ですが乳首出てないので全年齢。

※なお、テキスト部分で分かるように書いたつもりですが、ネクロテック本と同じ世界内の話なので、単に「別枠」なだけです

そういう訳です。何せ今年の五月でネクロテックそしてわたしのコミティアデビューから十周年なので、多少踏み外したこともやるべきだろうと……まあちょこちょこ用意してたんです。去年の内に。でもいつ出すかまったく決まらなかったところに、昨年末にとある「喝」が入りまして、いますぐこの冬の内になんか出さないと！あ、ここにまとまった下描きがあるじゃん！そしてこの本がここに 있습니다。でも最初の予告通り一月末で出せてたら一番格好良かったのですが、度重なる雪かきや台所のトラブルでいっとき手首を傷めていたのでちょっとだけ遅れてしまいました。仕上がっていくペースそのものは非常に良かったんです、自己ベストなスピードでした。今年はこの先もこんな調子で続く予定です。

『サンダラーズ・アサンダー』の時点で言及していた次回作予定の『シニスター・リージョン』も、どういう形であれ今年は絶対出します。またアルテンアキタで皆さんとお会いすることになるでしょう。それまでみなさんも健やかに歩み、健やかに病める暮らしをお送りください。ありがとうございました。

Beneath the Mire

——泥濘より愛を込めて、メグリム・ハルヨ

Special Thanks:FANBOX 支援者の皆様
Special Many Thanks: 試金様(<http://petrushkajp.blog.fc2.com>)
※試金氏からの音がケツ(my ass!!)への贈り物なくばこの本は出ませんでした。本当に。

◇奥付◇

『アルゲンタ：アルゲントルム： ARGENTA ARGENTORUM』

初出：2022年 2月3日

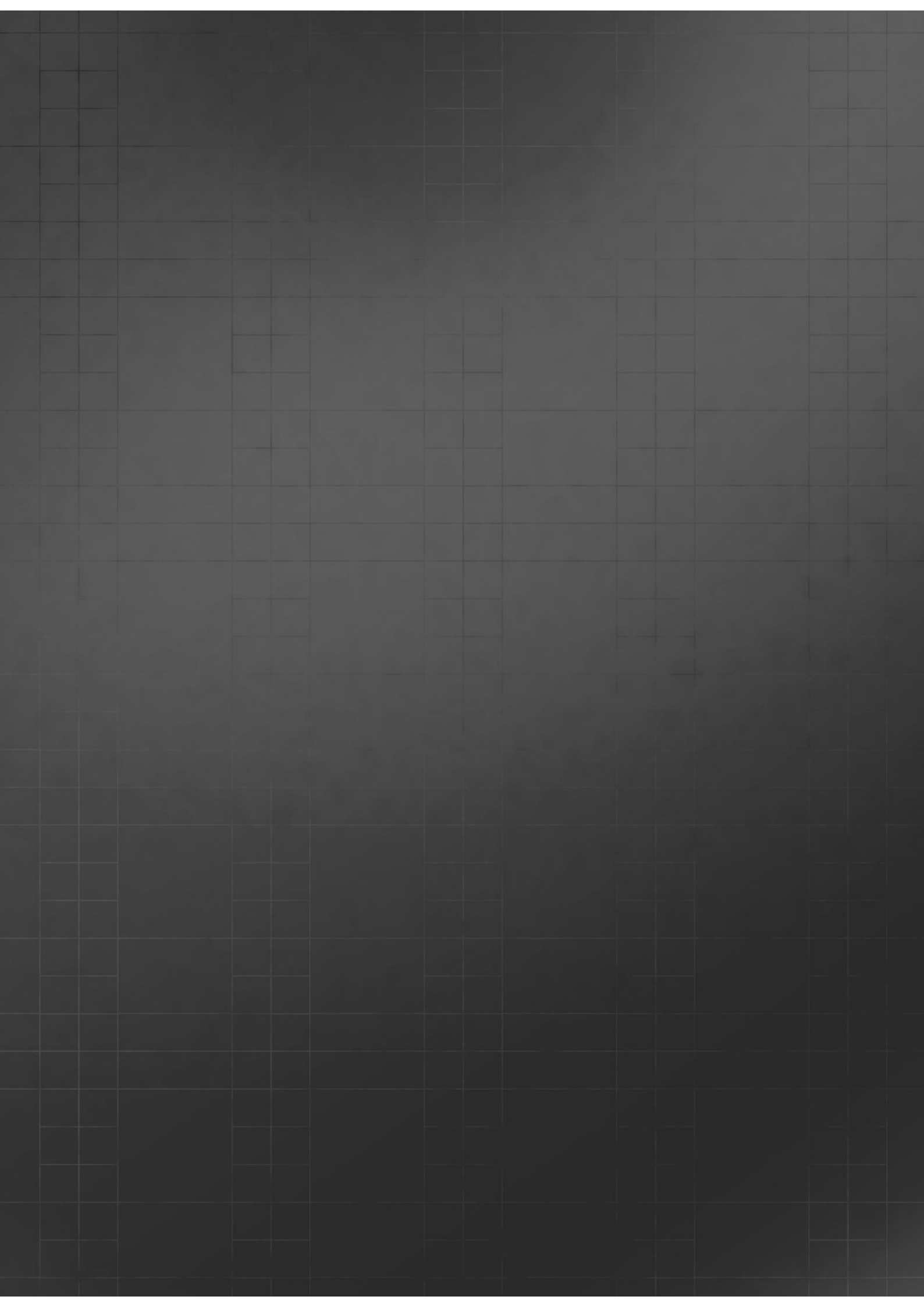
作者：メグリム・ハルヨ (@megrim_haruyo)

サークル：HEMIKRANIAK / 朽techS

連絡先：haruyoi@hotmail.co.jp



!!DIGITAL EDITION ONLY!!



HEMIKRANIAK/朽techS 2022
ARGYROID DIGITAL ONLY EP